



阪神高速技研

阪神高速技研株式会社 (阪神高速道路グループ)



阪神高速グループの一員として道路の調査・設計からコンサルティング業務まで実施。
同社グループの全PCにFFRI yaraiを導入し、グループ全体のセキュリティレベルの向上を図る

阪神高速技研株式会社は206.5kmのネットワークを有する関西都市圏の大動脈である阪神高速道路に関わる阪神高速グループの一員として、道路の調査・計画から設計・積算、施工管理、情報管理などのコンサルティング業務を行ってきた企業です。

近年、高速道路を取り巻く社会環境は大きく変化するとともに、新設事業よりも既存の道路や施設の維持・管理事業にウエイトが移行しつつあります。このような状況に対応するため、阪神高速道路の半世紀にわたる歩みの中で培ってきた

専門知識や実践経験に根ざした技術力をより総合的な企業力として構築し、自由な発想と創意工夫を大きな武器とするコンサルティング業務を展開しています。

同社のシステム事業本部では、同グループの親会社である阪神高速道路株式会社（以下、敬称略「阪神高速道路」）が掲げる「先進の道路サービスへ」の実現に向け、情報セキュリティ対策を含む社内システムを安全・安心・快適に利用できるよう総合的にマネジメントを行っています。

導入の背景

動作が重い製品のリプレースとして エンドポイントを多層防御できる FFRI yaraiを検討

阪神高速技研では2015年6月の日本年金機構の情報漏洩事件の報道と同年7月にグループ会社のwebページがサイバー攻撃を受けたことをきっかけにサイバー攻撃をより身近な脅威として意識し、サイバーセキュリティ対策を総点検することになりました。

「標的型攻撃メール対策訓練は行ってきましたが、メンバーで開封率0の実現はありえないと思っていました。やはり技術的支援が必要だと考えました」（興梠氏）

そこで廉価だったこともあり、サンドボックスでサイバー攻撃を検知する製品を導入しました。

「ところがエクセルやワード、webの動作がかなり遅くなったことで導入直後から社内の各所から苦情が寄せられました」（中南氏）

「“待ち時間が長い”と人がストレスを感じるレベルの動作の重さでした」（興梠氏）

そのため、この製品の利用を打ち切り、リプレース製品として候補に挙がったのが「FFRI yarai」でした。

「課題だった動作の重さを克服するだけでなく、これまで使ってきたウイルス対策ソフトと合わせてエンドポイントを多層防御ができる点でも評価しました」（興梠氏）



導入の経緯

同社の製品選定の方針 「多層防御」できて 「機能が重複しないこと」に合致

全社に展開をする前に一部の部署でFFRI yaraiを検証しましたが、動作が軽く、業務に影響が出ないことがわかりました。

阪神高速技研のセキュリティ対策製品選定の方針は、「多層防御」できて「（導入済みの他製品と）機能が重複しないこと」。動作の重い製品のリプレースとして候補に挙がったFFRI yaraiは、ウイルス対策ソフトと組み合わせて使え、機能が重複しない点で評価されました。

また、今回の導入は親会社である阪神高速道路がFFRI yaraiを先行導入していたこともあり、スムーズに進めることができました。

導入の効果

ウイルス対策ソフトではすり抜ける 不審なファイルを検知 国産ならではのレスポンスの速さ

阪神高速グループでは不審メールを受信した際に、メールを開封せずに指定したアドレスに転送するようユーザーに依頼しています。転送されてきたメールの添付ファイルの中には、ウイルス対策ソフトでは検知不可で、FFRI yaraiでは検知できたものがあったそうです。

「ウイルス対策ソフトだけでは検知できない攻撃を検知できるというFFRI yaraiの優位性を実感しました」（岩本氏）

また、FFRI yaraiが国産である点もいざという時の安心感につながると期待を寄せていただいています。

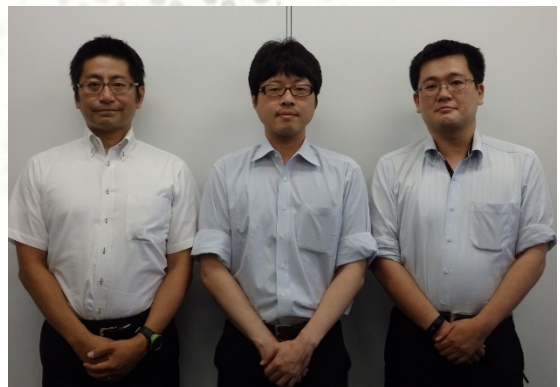
「動作の重さを理由に利用を打ち切った製品は、サポート先が海外ということもあり、レスポンスが遅かったこともストレスになっていました。国産のFFRI yaraiは、何かあった時のレスポンスが速いという点でも安心材料になっています」（興梠氏）

今後の展望

グループ全PCにFFRI yarai導入 引き続きセキュリティレベルを 高めていく

阪神高速道路での導入に続き、阪神高速技研とそのグループ会社でも導入し、現在は阪神高速道路グループ保有の全PCにFFRI yaraiが導入されています。

「グループ全体で使っている対策製品が揃い、同じセキュリティレベルが実現できたと考えています。FFRI yaraiの導入でエンドポイントでの多層防御はできていると考えているので、今後は不審なメールのサーバー上でのブロック率の向上等、エンドポイントより手前で何かできることがないかを今後は検討していきます」（興梠氏）



（左から）システム事業本部 運用管理課 課長補佐 興梠 直樹氏、
中南 浩司氏、係長 岩本 宏氏

▶導入事例に記載された情報は初回掲載時(2017年12月)のものであり、閲覧・提供される時では変更されている可能性があることをご了承ください。導入事例は情報提供のみを目的としています。当社は、明示的または暗示的を問わず、本内容にいかなる保証もいたしません。

▶製品・サービスについてのお問い合わせは

株式会社FFRI

〒150-0013 東京都渋谷区恵比寿1-18-18 東京不動産恵比寿ビル4階

TEL: 03-6277-1811 E-mail: sales@ffri.jp

本製品に関する情報はインターネットでもご覧いただけます。

<http://www.ffri.jp/>

■このパンフレットの内容は改良のために予告無しに仕様・デザインを変更することがありますのでご了承ください。

2017年12月現在